

【事業実績】

〔事業概要〕

舞鶴引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界遺産登録5周年に加え、戦後・海外引揚開始75年の大きな節目を迎え、平和で持続可能なよりよい未来を構築するため、世界記憶遺産登録資料を活用し、「シベリア抑留」と「引揚事業」に特化した日本に唯一の資料館として、史実を風化させることがないように、学生や若い世代の「次世代による継承」に重点をおき事業を実施するとともに、国内の歴史を共有する旧引揚港関係都市、平和系資料館・歴史系博物館等関係者やホストタウンの取り組みの中で交流する海外関係施設等の関係者との連携・協力を図り、グローバルな歴史・文化拠点として、さらには、地域社会とつながる交流拠点を目指し、以下の各種事業を実施する。

1 国際ブランド推進事業のための各種行事の開催

(1) 引揚関係都市等との連携による共同企画展開催事業 (2) 世界記憶遺産国際ブランドプロモーション事業

①全国巡回展 in 横浜、ブランドプロモーション in 横浜

②戦後・海外引揚開始75年事業・平和祈念展示資料館と連携したシベリア抑留展及び次世代フォーラム in 東京
ブランドプロモーション・平和祈念展示資料館合同企画展 in 東京

③ユネスコ世界記憶遺産登録5周年事業・京都学・歴史館と連携した世界記憶遺産登録資料展及び連続講座 in 京都、ブランドプロモーション・京都学・歴史館連携企画展 in 京都

(実施事業)

①全国巡回展 in 横浜

ユネスコ世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」を活用して実施した旧引揚港（横浜）と連携した全国巡回展では、1000人を超える多くの方が来場するとともに、開催地の新聞社やTV局等のメディアによる告知などプロモーションの実施により、開催地及び周辺市の住民に忘れかけていた「引き揚げの歴史」や「平和への願い」を思い起こさせ来場者は、「シベリアでの悲惨な様子がわかる。改めて平和の尊さを知るためにも戦争を知らない世代、若者世代の多くの方に見てほしい。」「祖父がシベリア抑留者。生前は全く抑留時代の話をしなかったが、このような歴史が決して繰り返されてはならない」と話すなど、次世代への継承の大切さを発信するとともに地域の歴史の掘り起こしに繋げることができた。

期間：令和3年3月17日（水）～23日（火）、10：30～19：00

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館2階スペース、来場者数：1018人



横浜展・プレス内覧会

②戦後・海外引揚開始75年事業・平和祈念展示資料館と連携したシベリア抑留展及び次世代フォーラム in 東京

平和祈念展示資料館（東京・総務省所管）との相互の施設で開催するシベリア抑留に関する企画展（平和祈念展示資料館 in 舞鶴、舞鶴引揚記念館 in 東京）を開催するとともに、舞鶴中高生語り部リーダーや東京の大学生等、未来を担う若い世代が参画した「私たちが伝える記憶～シベリア抑留をたどって～」の動画を作成し、YouTubeやホームページ等を活用して、「引き揚げ」と「シベリア抑留」の史実と平和の願いを国内外に発信できた。動画に出演した舞鶴中高生語り部リーダーは、「難しい言葉で語られる過去の歴史を、中学生の私が同世代の若い人たちに自分の言葉でわかりやすく伝えたい。若い人に史実を知ってもらえるよう高校に進学しても語り部は続けたい」とこたえるなど、「次世代による継承」が根付いてきたことは最大の成果である。



次世代による継承・動画



平和祈念展示資料館 in 舞鶴



舞鶴引揚記念館 in 東京

①平和祈念展示資料館 in 舞鶴、期間：令和2年7月16日（祝）～9月16日（水）、来場者数：9,164人

②舞鶴引揚記念館 in 東京、期間：令和2年11月17日（火）～29日（日）、来場者数440人

③ユネスコ世界記憶遺産登録5周年事業・京都学・歴史館と連携した世界記憶遺産登録資料展及び連続講座 in 京都

平成27年にユネスコ世界記憶遺産登録を同時に果たした京都府立京都学・歴史館と連携し、世界記憶遺産登録資料「舞鶴への生還」の連続講座やシベリア抑留等に関する企画展を開催するとともに、京都市内で「戦争遺跡」をテーマに学習する府立鴨沂高校の高校生と「引き揚げ・シベリア抑留」を語り継ぐ舞鶴中高生語り部リーダーとをWEBで繋ぐオンライン・リモート次世代交流を開催



高校生リモート交流会



引き揚げ・シベリア抑留連続講座

し、相互の学習発表や「平和」について考える意見交換を行うなど、次世代を主体としたディスカッションを実施し、「次世代による継承」活動に取り組むことができた。

①「引き揚げ・シベリア抑留」連続講座、期間：令和2年7月9日、16日、8月6日、20日（4回）

「引き揚げ・シベリア抑留」パネル展 期間：令和2年7月9日～8月6日

②「平和」に関する高校生リモート交流会、開催日：令和2年8月6日、 全来場者数：180人

2 海外情報発信事業

(1) 2020 東京オリンピック・パラリンピックホストタウンに関連事業・海外展示 ウズベキスタン抑留 “抑留から交流展” in リタン

舞鶴市とウズベキスタン・フェルガナ州リタン市は、令和元年11月に「リタン地方との人材育成交流（茶栽培・介護・産業技術）に関する覚書」を締結するなど一層の交流が進展する中、リタン市の日本語学校「Noriko 学級」において、日本人が残した「ウズベキスタンでの抑留」や「抑留がホストタウン交流に繋がった経過」等を現地の方々に広く知ってもらい、恒久平和の願いを発信することを目的に海外企画展を開催した。Noriko 学級の生徒は「抑留の歴史が縁となって平和の祭典オリンピックのホストタウン交流に繋がった。抑留の歴史を語り継ぎこの平和な交流が今後も続けていけるよう自分のできることを考えて行動したい」、「私たち日本語学校に通う生徒の学習用に日本語で説明されているパネルをリタン市民にも分かるようにウズベキスタン語に翻訳したい」と語るなど、海外への情報発信に繋げることができた。



展示室



展示室・正面入り口

期間：令和3年1月～（常設で展示する）、会場：日本語学校「Noriko 学級」 in リタン

(2) 「シベリア抑留に関する紙芝居」の英語版動画による HP・YouTube 情報発信

地元の東舞鶴高等学校との連携事業として、2016年に同校の生徒が制作し、引揚記念館に寄贈した「日本語デジタル版・シベリア抑留に関する紙芝居（「シベリアからやって来た知）」の英語版デジタル紙芝居を作成した。

英語版の収録に参加した生徒は、「イントロが難しかったが、伝わりやすいように意識して朗読した、舞鶴の歴史を多くの人に知ってほしい」「英語での感情の込め方が難しかった。争いや差別のない世界になってほしい」と述べ、YouTube やホームページ等を活用して、海外に向けて情報発信することができた。

制作者：京都府立東舞鶴高校国際文理コース2年生 35名（うち収録者：10人）



収録の様子①



収録の様子②

3 専門的機能向上事業

(1) 「英語」による「引き揚げやシベリア抑留」の史実の語り部人材育成研修

期間：令和3年3月13日（土）、20日（土）、27日（土）、受講者数：23人（内高校生3人）

これまでの世界記憶遺産登録への取り組みや ICOM（国際博物館会議）京都大会などを通じて、国際的な交流が進んできており、また、近年、舞鶴港へ寄港する海外クルーズ船の増加により、引揚記念館への海外からの来館者が増えつつある。この状況の中、アフターコロナを見据えて、訪日外国人来館者に対して、「英語」による引揚記念館の館内ガイドができる人材を発掘し、育成を進めていくための研修会を、高校生から高齢者までの23名の方の参加を得て開催した。

受講者は、「英語での単語の使い方や表現の仕方を学び、いろんな国の人に舞鶴の歴史を伝えられるようになりたい」、「引揚記念館には、ふるさと学習で来たことがあった。引き揚げを知り、英語で海外に紹介できれば」と語るなど、語り継ぎを担う人材を発掘・育成に取り組めた。今後は、コロナ収束後を見据えて、案内ガイド活動の提供に繋げていく。



20日英単語の解説



20日 館内英語ガイド実習

4 成果・効果

上記の各種事業を実施し、舞鶴引揚記念館が収蔵する世界記憶遺産登録資料を活用し、「シベリア抑留」と「引揚事業」に特化した日本唯一の資料館として、恒久平和の願いの発信、次世代への史実の継承を図るため、国内外の子どもたちや学生などに働きかけ、事業参画を促進することができた。

また、国内外の学校教育等機関と連携した事業活動を積極的に行い、学生へのアプローチ、事業参画者数の増加を図り、関心度・認知度の向上に努め、「次世代への継承」から「次世代による継承」モデルの構築を進めることができた。

目標指標 ①中高生学生語り部（ホーター）数の増（前年度比5人以上）

（結果） R元年度＝17人 → R2年度＝24人（+7人）

②教育旅行・平和学習等による新規・市外来館校数の増（前年度比5校以上）

（結果） R元年度＝8校 → R2年度＝29校（+21校）